

2006 年度

科目名 日本文学講読Ⅲ	対象学科・学年 文学部日文1回生	担当者 小林 健二
授業テーマ 説経節を読む		
授業の概要と目標 説経節は、室町時代の後期から江戸時代の初期にかけて、神社仏閣の前など人の集まる場所で、ササラという簡単な楽器を伴奏に語られた物語である。また、江戸時代に入って挿絵入りで出版もされ、読み物としても享受された。その広く庶民に愛された説経節の魅力を探るために、代表的な作品である「さんせう太夫」を取り上げて深く読んでいきたい。		
評価方法 出席状況（20％）・試験（80％）		
テキスト プリントを配布する。	著者	出版社
参考書 講義中に随時紹介する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1 ガイダンス 1 ……中世の語り物の世界 2 ガイダンス 2 ……説経節の世界「さんせう太夫」 3 語り出し 父親の流罪と家族の不遇。そして母子の京への旅立ち。 4 母子、直江津にて山岡太夫にたばかられて売られる。 5 山椒大夫に売られた兄弟の悲嘆。 6 安寿、厨子王に脱走を勧めるが露見して罰をうける。 7 厨子王、山椒大夫のもとを脱出する。 8 太夫ら安寿を責め殺し、厨子王に追っ手をつける。 9 厨子王、国分寺のお聖の機転と地藏の霊験により助かる。 10 厨子王、京を目前に天王寺に迂回して梅津院の養子となる。 11 厨子王、岩城家を再興し、太夫親子に復讐をする。 12 語り納め 厨子王、母親との再会を果たして、大いに栄える。 13 森鷗外の「山椒大夫」との比較。 14 まとめ 15 試験		